

「ケヤキ」ってどんな木

ケヤキは、日本を代表する落葉広葉樹で、大きくなると樹高 50m、直径 3mに達するものもあります。

扇のような樹形、樹皮の美しさだけでなく、その材は質が良く、昔から建築材や家具材として重宝されていました。そのため、公園や神社、お屋敷など様々な場所で植えられています。

このようなケヤキですが、本来の生育地は、水分や養分が十分にある溪谷や川岸の斜面地などです。急峻な斜面地でも根を広くしっかり張り、生育しています。

杉並区をはじめ、関東地方には有名なケヤキの並木や巨木、名木などが数多くあります。土壌の豊かな関東の台地は、ケヤキの生育にたいへん適しています。



自然樹形の美しい代々木公園のケヤキ



明治神宮表参道のケヤキ並木

現地見学会のお知らせ

東京都では中杉通りのケヤキ並木について良好なケヤキ並木の管理を進めるため、保護管理の考え方の説明会及び試験的な保護管理を行うモデル地の現地見学会を実施いたします。

日時 平成 23 年 9 月 9 日 (金) 13:30~16:30 (13:15 開場)

場所 杉並区立 産業商工会館3F 講堂 (阿佐谷南3-2-19) 及び
中杉通り ケヤキ並木モデル地

講師 松田輝雄先生 (元 NHK エグゼクティブアナウンサー)

申込 東京都建設局第三建設事務所 補修課 街路樹係

TEL 03-3387-5384 (直)

次号(最終号)では、モデル地での具体的な取り組み内容や保護管理の進め方をご報告致します

本取り組みに関するご意見、ご要望は、右記の連絡先まで



中杉通りケヤキ並木 News Letter No.2
2011.7 発行

発行者 中杉通りケヤキ並木連絡会

連絡先 東京都建設局第三建設事務所 補修課街路樹係
TEL 03-3387-5384 FAX 03-3387-9180

※転載・転用を禁じます。表紙写真：現在の中杉通り

中杉通りケヤキ並木 News Letter No.2



ふるさとのみどり

"ケヤキのトンネル" を50年後も守り育てるために

杉並区のシンボルである『中杉通りのケヤキ並木』街に「うるおい」と「やすらぎ」を与えるこの緑のトンネルを、これからも守り維持していくために、ケヤキ並木の保護管理に取り組んでいきます。

※「中杉通りケヤキ並木連絡会」において、樹木の成長に伴い発生している問題点等を確認し、今後の保護管理について検討しました。

保護管理の考え方

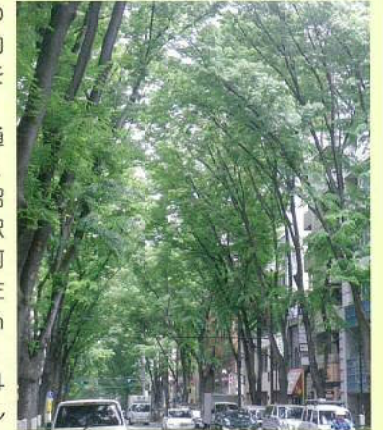
- ケヤキの生育間隔が狭く、樹木同士が競り合い、弱った木が見られます。ケヤキを健全に育てていくため、間伐により、1本1本の生育する間隔を広げます。
- ケヤキの多くは樹形のバランスが悪い状態です。樹形を整え良好な生育環境をつくり、美しい並木にしておくため、剪定により、樹高を15～18m程度に保っていきます。
- 定期的に、ケヤキの生育状況を調査し、必要に応じて、保護管理の見直しを行います。

保護管理のモデル実施

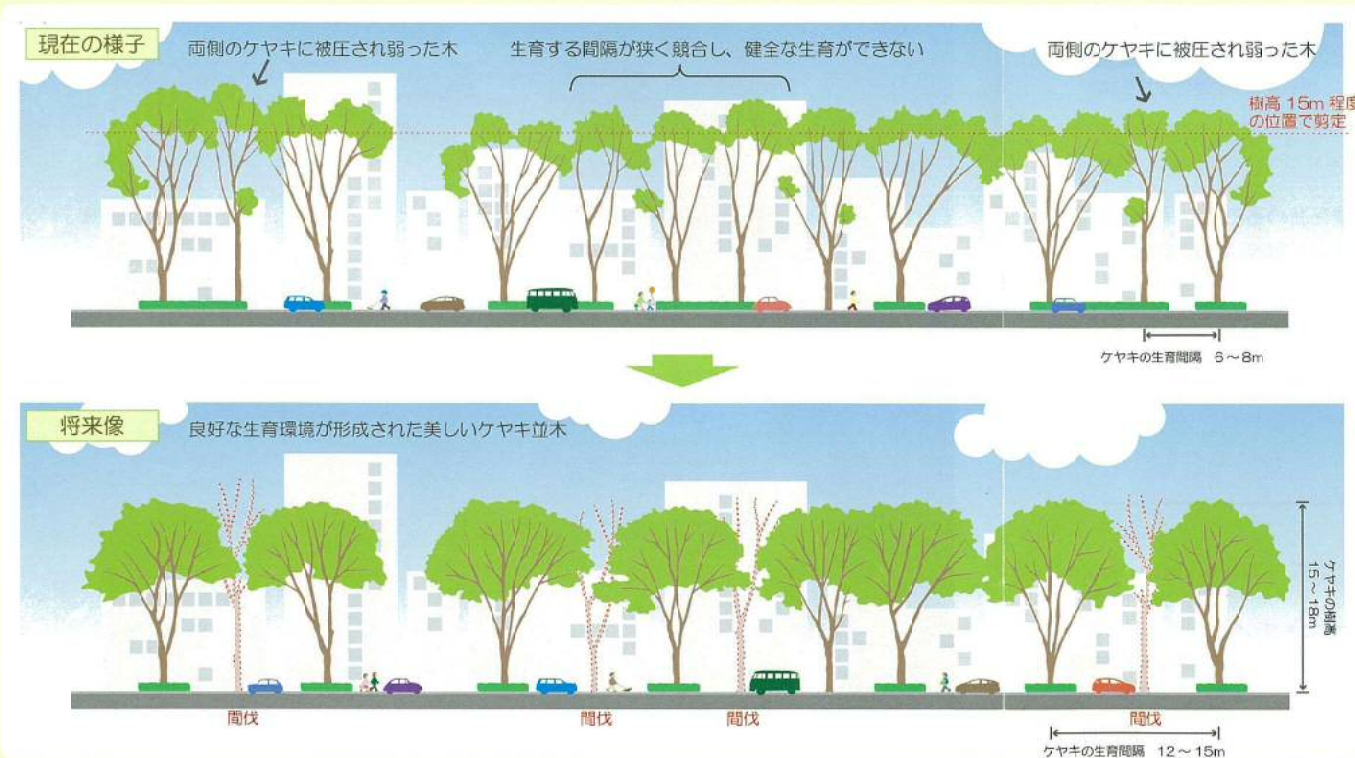
本格的な保護管理の実施に先立ち、試験的に実施するモデル地を設定しました。

モデル地は、中杉通りケヤキ並木の中で、植栽時期が最も古い(昭和29年)阿佐ヶ谷駅～青梅街道のうち、阿佐谷南1丁目及び阿佐谷南3丁目の約100m区間とします。

モデル実施は平成24年1～2月頃を予定しています。



保護管理のモデル地



被圧されたケヤキ

